



2026 年 1 月 6 日

G20 の今後

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 浅川 雅嗣

皆様、明けましておめでとうございます。本年も色々なことがありそうですが、引き続き私の拙文にお付き合いいただけましたらうれしく存じます。

さて、昨年 12 月 1 日から、G20 の議長国が南アフリカから米国に替わりました。トランプ政権は本年の G20 をどのようにマネージしていくのでしょうか。地政学的リスクの高まりもあって、その方向性は不透明であると言わざるを得ません。

もともと G20 という枠組みができたのはアジア通貨危機の後の 1999 年、金融システムの安定化を議論するために財務大臣、中央銀行総裁レベルで会議を始めたのが始まりでした。2008 年 9 月にリーマンショックが起これ、一瞬にしてドルの流動性が世界的に枯渇し、世界経済は 100 年に一度といわれる甚大なショックに見舞われました。その時、当時のブッシュ米国大統領から麻生総理に電話がかかってきて、首脳レベルで今回の世界金融危機の議論をしたいが、会議体としてはすでに財務大臣レベルで行われている G20 を首脳レベルに格上げしてサミットとしたいという提案があったのです。

G20 のメンバー国は、G7 に加えてアルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコとなっており、必ずしも地域的なバランスがうまくとれているということでもないのですが、他のフォーラムを考える時間もなかったもので、結局 G20 がそのままサミットになり、第一回の首脳会議が 2008 年の 11 月にワシントンで、第二回の首脳会議が 2009 年の 4 月にロンドンで開催されました。G20 首脳同士の議論により、各国の財政出動の拡大による景気対策と、資金基盤を大幅に強化した IMF を中心としたマルチの国際金融支援体制の構築が合意され、実行に移されました。その結果、世界経済は 2009 年後半から回復の兆しを見せ始めたのです。

こうした経緯でできた G20 サミットでしたが、留意すべきことは、必ずしも民主主義や法の下での平等、言論の自由等の基本的価値観が同じではない国々同士であっても、議論すべき、あるいは議論できる国際金融、経済上の課題を取り上げるのが G20 の役割であったことだと思います。逆に言えば、G20 の場に政治、外交、安全保障の議論を持ち込んだ場合には、本質的に G20 の議論の有効性は損なわれるという宿命を帯びて

いるのです。現にウクライナ戦争に関して、当事国のロシアが入っている G20 は、基本的には無力です。また、昨年の南アフリカ議長の G20 プロセスに米国は政治的思惑から非協力的で、本年の米国議長のサミットに南アフリカを招待しない可能性を示唆しています。また、マルチラテラリズムに必ずしも熱心とは言えないトランプ大統領の下で、G20 に関連した会議が増えすぎたとして、諸会議の規模やアジェンダを縮小する意向とも聞きます。

こうした状況の中で、米国建国 250 周年にあたる本年の G20 の議論は、米国議長の下一体どのように展開するのでしょうか。是非初心に立ち返り、G20 にふさわしい課題に生産的に取り組んで頂きたいものだと思います。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>